



相啓新皇・際西根入
 法・延原在健の神宗為
 國・家五智此事と其常子
 縁・談之純は之方厚
 配・と快しは陰好結果
 と・得物似謝のささ老
 と・交又其く口可嘆の所推
 羽・^三願く惘性之至と其
 既・^三双方結納も其信道安ん
 侍・^三十月先方一日越城
 井・^三上河原為又縁て其承
 向・^三そり老話と名水田所
 直・^三櫻樹と名子と伴宮内
 省・^三願又表内其子し

直徳殿と名の子に件字内
省の願又表内をさし

手教の事連々お慰めを
申す

南無阿彌陀佛誠心奉
申す

申す老母直徳殿の御
事

と申すこれの御事置
申す

よき子の事ゆかり
申す

く毎々申すの場
申す

古し事情の懐念と
申す

とも可成りお
申す

願ひ申す敬
申す

茲迄入閣の
大御

御採時機極めて
申す

の事申すお
申す

若國の家より
申す

次入閣の御
申す

再々申す
申す

自雲堂の御事
申す

御事申すは
申す

御事申すは
申す

次大関成りて物には出づ積手

吾慮する所の

皇室甲子言者の事等往

中東に於ては是なるに

少の國をもととるる也此等の

舉動も如何と云ふ事はお

孰き第十議亭に非ざる

必上意に付其意も十分孰

考はしむるに相違なし

積年の誠以て是等の

令及に及んで為國家に

害するに所積るる事

之に

九月廿二日

直彬

大隈大見研北

二申出候

奥様へ此の風

と申す也

東京牛込早稲田
大隈重信殿
見
廢



絨

月百店島

錫島直彬



二